

1. 化学物質等及び会社情報

化学物質等の名称: 石定盤用水性クリーナー GSC-○○○Y
 会社名: 新潟精機株式会社
 住所: 新潟県三条市塚野目5-3-14
 電話番号: 0256-33-5502
 緊急時の電話番号: 同上
 FAX番号: 0256-33-5528
 推奨用途及び使用上の制限: 石定盤用洗浄剤

2. 危険有害性の要約

分類の名称 H21.3.31、政府向けGHS分類ガイダンス(H20.9.5版)を使用

GHS分類

物理化学的危険性	分類対象外または区分外	
人健康有害性	急性毒性(経口)	区分外
	皮膚腐食性・刺激性	区分3
	眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性	区分外
	皮膚感作性	区分1
	生殖毒性	区分1B
	特定標的臓器・全身毒性(単回ばく露)	区分3(気道刺激性、麻酔作用)
	特定標的臓器・全身毒性(反復ばく露)	区分外
水生環境有害性・急性		区分3

* 記載のないものは分類対象外または分類できない

ラベル要素

絵表示又はシンボル:



注意喚起語:

危険

危険有害性情報:

H316:軽度の皮膚刺激
 H317:アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ
 H360:生殖能または胎児への悪影響のおそれ
 H371:呼吸器への刺激のおそれ、眠気及びめまいのおそれ

注意書き:

【安全対策】

P261:粉じん、ヒューム、ガス、ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと
 P272:汚染された作業衣は作業場から出さないこと
 P280:保護手袋を着用すること
 P201:使用前に取扱説明書を入手すること。
 P202:全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと
 P263:妊娠中/授乳期中は接触を避けること
 P264:取り扱い後はよく手を洗うこと
 P270:この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと
 P271:屋外または換気の良い場所でのみ使用すること

【応急措置】

眼に入った場合:P305+P351+P338 P337+P313
 水で数分間注意深く洗う事。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外す事。その後も洗浄を続ける事。眼の刺激が続く場合は、医師の診断、手当てを受ける事。
 飲み込んだ場合:P330 P301+P312
 口をすすぐこと、気分が悪い時は医師に連絡すること
 皮膚に付着した場合:P332+P313
 皮膚刺激が生じた場合、医師の診断/手当てを受けること。
 暴露した場合:P308+P313
 暴露または暴露の懸念がある場合、医師の診断/手当てを受けること。

【保管】

施錠して保管すること。

【廃棄】

P501:
 内容物/容器を国際、国、都道府県、又は市町村の規則(明示する)に従って廃棄すること。

3. 組成、成分情報

単一製品・混合物:	混合物	
成分及び含有量	成分	wt%
	直鎖アルキルベンゼンスルホン酸及びその塩 (アルキル基の炭素数が10から14までのもの及びその混合物)	2.1%
	可溶化剤	非公開
	メタノール	5%未満
	非イオン界面活性剤	非公開
	増粘剤	非公開
	PH調整剤	1%未満
	防腐剤	1%未満
	精製水	残分

4. 応急措置

皮膚に付着した場合:	皮膚を流水、シャワーで洗う事。衣類を再使用する場合には洗濯する事。洗い残し等により皮膚刺激が生じた場合医師の診断、手当てを受ける事。
目に入った場合:	水で数分間注意深く洗う事。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外す事。その後も洗浄を続ける事。眼の刺激が続く場合は、医師の診断、手当てを受ける事。
飲み込んだ場合:	口をすすぐこと、気分の悪い時は医師に連絡すること
予想される急性症状及び遅発性症状並びに最も重要な兆候及び症状	:情報なし
応急処置をするものの保護:	被災者を救助する場合は、状況に応じて適切な保護具を着用する

5. 火災時の措置

消化剤:	水、泡、粉末、二酸化炭素などの一般消化剤が使用出来る。
特定の消火方法:	本製品は不燃性物質であるが、周辺火災の場合はすみやかに安全な場所に移す。移動ができない場合は、風上より容器周囲に散水して冷却する。
消火を行う者の保護:	消火作業の際には、適切な保護具を着用し、煙の吸入を避ける。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項:	必要に応じて保護メガネ、ゴム手袋、ゴム長靴、保護衣などの保護具を着用する。
環境に対する注意事項:	雨水溝、河川、海上などに排出されないように注意する。
除去方法:	スクイジーなどを用いてできる限り空容器などに回収する。回収した後、または回収できないものは、多量の水にて十分に洗い流す。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い	技術的対策:	「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。
	安全取扱い注意事項:	すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わない事 ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。 眼にいれない事。吸入又は飲み込まない事。
	接触回避:	「10. 安定性及び反応性」を参照。
保管	技術的対策:	保管場所の床は、床面に水が浸入し、又は浸透しない構造とする事。保管場所の床は、危険物が浸透しない構造とするとともに、適当な傾斜をつけ、かつ適当なためますを設ける事。
	混触危険物質:	「10. 安定性及び反応性」を参照。
	保管条件:	密閉して保管する。子供の手の届かない所に保管する。
	容器包装材料:	情報無し

8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度 未設定

成分	許容濃度 (ばく露限界値、生物学的ばく露指標)	
	日本産衛学会	ACGIH
直鎖アルキルベンゼンスルホン酸及びその塩	未設定(2007年版)	未設定(2007年版)
可溶化剤	未設定	未設定
メタノール	200ppm 260mg/m ³ (皮膚吸収)(2009年版)	TWA 200ppm STEL250ppmSkin(2009年版)
非イオン界面活性剤 (含ジエタノールアミン)	未設定	1mg/m ³ (TWA)(ACGIH 2009) (ジエタノールアミンとして)
増粘剤	未設定	未設定
防腐剤	未設定	未設定

- 設備対策: 取扱う場所の近くに洗眼器及び身体洗浄のための設備を設置する。そして、その位置を明瞭に表示する。
- 保護具 手の保護具: 適切な保護手袋を着用すること。(ゴム手袋等)
 目の保護具: 適切な目の保護具を着用すること。(保護眼鏡)
 皮膚及び身体の保護具: 適切な保護衣、保護長靴、保護前掛け等。
- 衛生対策: この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。
 取扱い後はよく手を洗うこと。

9. 物理的及び化学的性質

- 物理的状態、形状、色など: 透明若しくは淡黄色液体
 臭い: 微原料臭
 pH: 6.0~8.0(原液)
 引火点: 非引火性
 溶解度: 水に可溶
- * 記載のないものはデータ無し

10. 安定性及び反応性

- 安定性: 通常の取扱には安定である。
 危険有害反応可能性: 通常の取扱には安定で危険な反応を起こす恐れはない。
 避けるべき条件: 40℃以上の条件下での保管、直射日光下、開放状態
 混触危険物質: 特になし
 危険有害な分解生成物: 特になし

11. 有害性情報

製品に対する情報はなし

原料情報

成分	危険有害性クラス	危険有害性区分	暴露経路	標的臓器
直鎖アルキルベンゼン スルホン酸及びその塩 (アルキル基の炭素数 が10から14までのもの 及びその混合物)	急性毒性	区分4	経口	
	皮膚腐食性/刺激性:	区分2		
	眼に対する重篤な損傷・刺激性	区分2A		
	皮膚感作性:	区分1		
	標的臓器・全身毒性(単 回ばく露)	区分3		気道刺激性
可溶化剤	分類基準に該当しない			
メタノール	急性毒性	区分4	経口	
	眼に対する重篤な損傷・刺激性	区分2		
	生殖毒性	区分1B		
	標的臓器・全身毒性(単 回ばく露):	区分1		中枢神経系、視覚器、 全身毒性
	標的臓器・全身毒性(反 復ばく露):	区分3		麻酔作用
非イオン界面活性剤	標的臓器・全身毒性(反 復ばく露):	区分1		中枢神経系、視覚器
	標的臓器・全身毒性(単 回ばく露)	区分3		肝臓 麻酔作用
	標的臓器・全身毒性(反 復暴露)	区分2		肝臓、腎臓、血液、中 枢神経系
増粘剤	眼に対する重篤な損傷・刺激性	区分2B		
防腐剤	0.1%未満につき分類基準に該当しない			

- * 製品の急性毒性(経口)は、5,000<ATEmixより区分外とした。
- * 製品の皮膚腐食性・刺激性は、10%>皮膚区分II物質≥1.0%より区分3とした
- * 製品の眼に対する重篤な損傷・刺激性は、眼区分2/2A物質<10%より区分外とした
- * 製品の感作性、皮膚感作性物質≥1.0%より区分1とした
- * 製品の生殖毒性は、生殖毒性区分1の物質≥0.3%より区分1とした
- * 特定標的臓器・全身毒性(単回ばく露)は、含有量が1%未満の濃度限界値未満により
 区分1(中枢神経系、視覚器、全身毒性、肝臓)は区分外、区分3(気道刺激性、麻酔作用)のみとした。
- * 特定標的臓器・全身毒性(反復ばく露)は、含有量が1%未満の濃度限界値未満により
 区分1(中枢神経系、視覚器)区分2(肝臓、腎臓、血液)共区分外とした。

12. 環境影響情報

製品に対する情報はなし

原料情報

水生環境急性有害性: 急性Ⅱ \leq 25%、(M \times 10 \times 急性Ⅱ)+(M \times 急性Ⅲ) \leq 25%となったので区分外とした

水生環境慢性有害性: データ不足のため分類できない

13. 廃棄上の注意:

残余廃棄物:

少量の場合は、水で十分に希釈して排出する。多量の場合は、都道府県知事の許可を得た専門の廃棄物処理業者にて委託処理する。

汚染包装:

空になった容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去した後に処分する。

14. 輸送上の注意

国際規制

海上規制情報:

非危険物

航空規制情報:

非危険物

国内規制

陸上規制情報:

特段の規制はない。

海上規制情報:

非危険物

航空規制情報:

非危険物

特別の安全対策

輸送前に容器の破損、腐食、漏れなどが無いことを確認する。

荷役作業は丁寧に行い、容器を破損しないように取扱う。

転倒、落下、損傷がないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。

直射日光下での輸送は避ける。水濡れを避ける。

15. 適用法令

消防法:

危険物に該当しない

労働安全衛生法:

名称等を表示すべき危険物及び有害物(法57条1、施行令第18条)(政令番号:36)

名称等を通知すべき危険物及び有害物

(法第57条の2、施行令第18条の2別表第9)(政令番号:9-560)

毒物劇物取締法:

該当しない

PRTR法:

第1種指定化学物質(法第2条第2項、施行令第1条別表第1)直鎖アルキルベンゼン
スルホン酸及びその塩(アルキル基の炭素数が10から14までのもの及びその混合物に限る。)(政令番号:1-24)

化審法:

該当しない

16. その他の情報

記載内容は、現時点で入手できる資料、情報、データに基づいて作成しております。本製品は工業用の特定の用途向けに開発された商品です。弊社が紹介した目的・用途及び用法以外では使用しないで下さい。使用前にSDS/カタログを参照するなど、すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わない事。全ての化学品には未知の有害性があり得るため、取扱には十分注意して下さい。又、この情報は当社で調査できる範囲内の情報であり、情報の完全さ、正確さを保証するものではありません。

災害事例

情報なし